

MBTIを利用した教育

宮城県仙台第三高等学校 4班

1. 背景と目的

これから先、テクノロジーの発展に伴い教育現場も大きく姿を変えることが予想される。そのような時代の流れの中で、同じく技術の進歩によって近年大いに注目を浴びているツールの一つに“MBTI”（性格診断）がある。我々はこのMBTIをただ一時の流行と捉えず、直近での著しい発展と将来的な成長への期待を兼ね備えたものとして、教育学、心理学などの観点から教育現場において効果的に活用できる方法を模索した。

この教育におけるMBTI（性格診断）の活用法の模索という活動において先に断っておくべき点として、この活動が単なる化学反応への期待から始まったものでないということだ。現状、どんな心理学の権威に裏付けされた性格診断ツールも教育現場で使用された事例は極めて少ない（我々の調査では該当するものは一つも確認できていない）。その理由については後述するが、これまで相容れることのなかった二つが互いに関係しあう可能性を発見することができれば、双方の分野の発展・拡大に繋がる事は容易に想像できる。我々はそれを目的として“MBTIを利用した教育”というテーマで探究活動を行った。

2. 教育と性格診断について

○性格診断ツールを使った教育を通して 子どもの自己形成をサポートする（この性格診断を用いた方法は教育者が教育方針を定めるためのツールであり、教育者の負担を減らすことを目的としている。）

実用案

①MBTIで性格診断を行い、教育者のみに結果を伝える。



②教育者が診断結果を元に子どもの明確な短所を理解する。



③生徒一人ひとりにあった教育を行う

上のような実用案には様々な問題点が見つかった。教育と性格診断を組み合わせたときの問題点は以下のものが挙げられる。

- ・子供を性格によって分類し、型にはめてはいけない
- ・個人に対してベストな教育方針を提示するのが難しい
- ・個人に合った教育をすることで差別につながる可能性がある
- ・個人に合った教育をすることは教育者側の大きな負担になる
- ・性格診断のみに固執しすぎてしまう可能性がある

我々は、これらの問題点を考慮したうえで、教育と性格診断を組み合わせる方法を考えた。

3. 未来の教育から考える性格診断の活用法

- ・キャリア形成に使うのが良い
 - ・1つのタイプに分類できない
- ➡パラメーターを使ったMBTIの利用

教育の個別化






発展的なグループ活動の増加



班分けにMBTIを使うことができる

性格特性

A 				B 				C 			
○○:20%		○○:30%		○○:50%						100	
◇◇:60%		◇◇:10%		◇◇:30%						100	
□□:20%		□□:60%		□□:20%						100	
100		100		100							

4. 結果・まとめ

【結論】

今後の教育現場の発展と性格診断を効果的に組み合わせていくには、MBTIで知ることができたそれぞれの性格特性を、将来の学校の授業で増えていくと予想されるグループ活動で活用できると考えられる。